

ロレイン・モートルの殺人

ルイス・カナレス 著
渡辺 貴代子 訳

今年の3月、私はテネシー州のメンフィスへ旅行し、市内の3つの有名な名所を訪れた。Elvis PresleyのGracelandと、ロックンロールのキングが1953年に初めてのレコーディングをしたSun Studio、そして1968年4月4日、公民権運動の指導者、Martin Luther King, Jr. 牧師が、306号室のバルコニーで暗殺されたThe Lorraine Motelである。

元々は1925年頃に建てられたウィンザー・ホテルで、後に黒人の宿泊できる数少ないホテルの一つとなった。宿泊客の中にはAretha Franklin、B.B. King、Nat King Coleなどの有名人もいた。ウォルターとロリー・ベイリーは1942年にウィンザーを買い、ロレインと名前を変えた。現在、そこはthe Civil Right Museumとなっており、観光客がキング牧師暗殺前後の、アフリカ系アメリカ人の平等な権利のための争いについて、知ることができるようになってる。1964年Martin Luther King, Jr. はノーベル賞平和賞を授与され、「Time」誌のPeople of the Centuryのうち7人のアフリカ系アメリカ人の1人に選ばれた。

1955年、人種差別の残るアラバマ州モンゴメリーで、その日の仕事を終え重い足取りでバスに乗ったRosa Parksは、白人に席を譲ることを拒み、投獄された。若きキング牧師は、公民権運動の指導者としてバス・ボイコットを計画した。1957年に民族主義に対して非暴力の戦いを唱えるSouthern Christian Leadership Conference（南部キリスト教指導者協議会）を創設し、1964年、有名なワシントンへの大行進を組織した。

“A Knock at Midnight - The Great Sermons of Martin Luther King, Jr.”には50年代から60年代のアメリカの人種差別に対する偽善について、11

の迫力ある演説が収められている。キリスト教徒であり聖職者、そして非暴力主義を支持し、不正に抗議

するキング牧師は、しばしば新約聖書から「右の頬を打たれれば、左の頬をさしだせ」を引用し、黒人に勇気を与えた。一方Malcolm Xは、「目には目を、歯には歯を」と主張した。(アメリカの最も怒れる黒人 - Malcolm Xは、自己防衛以外の暴力を説いたことはなかった。キング牧師が平和を夢み、人種差別の終わりを祈っていた頃、ブラック・モスレムの公民権運動家は、黒人と白人の完全な人種分離を説いたが、脱会した後は、人種統合を受け入れた)

キング牧師は、ボストン大学から神学の博士号を受けた学者だった。その豊かな知識は演説の中にも多く言及されている。聖書、Shakespeare、Plato、Aristotle、Abraham Lincoln、John Kennedyなど、「たとえどこであろうとも、正義のために立ち上がり、悪に立ち向かう人々」の公正な愛と平和のメッセージが豊富に語られている。

1965年7月4日、ジョージア州アトランタのEbenezer Baptist Churchでの「アメリカン・ドリーム」のスピーチは、アメリカの偽善の典型として際立っている。独立宣言には、「すべて人々が平等に造られていること、その創造主から譲り渡すことのできない一定の権利を与えられていること、そうした権利の中には、生命、自由、幸福の追求がある」と述べられている。この「威厳のある言葉」で成り立つ「アメリカという国は、その国自身に相対立するものを抱えている。誇りをもって民主主義の偉大な原則を断言する一方で、われわれ黒人は、悲しくもそれらの原則のまさしく正反対を学んだ」「人種差別は道徳的に悪であり、また罪深いものである」と、キング牧師は説いた。

